

VIII

不登校児童・生徒支援事業について

「光の森」活動	不登校児童・生徒対応研究員	長田 純子
「学びの森」活動		
「光の森」活動	不登校児童・生徒支援員	築谷 康夫
「学びの森」活動	不登校児童・生徒支援員	笠井 一司

1. はじめに

今年度、大阪府教育庁では、不登校対策ワーキング委員会の取組みとして「不登校児童生徒への効果的な支援の在り方について」を研究課題としており、その中でも「継続不登校者への自立支援に向けた取組み」が注目されています。

吹田市では平成4年度（1992年度）に「光の森」活動が吹田市青少年野外活動センター（現吹田市自然体験交流センター）で活動を開始し、平成20年度（2008年度）には竹見台多目的施設を活動場所に「学びの森」活動を開始しています。「光の森」活動・「学びの森」活動は吹田市立教育センターの教育相談事業の中の「不登校児童・生徒支援事業」として実施していますので、他市町村の適応指導教室に比べ相談員（臨床心理士）が児童・生徒本人・保護者・学校と面談等で日常的に深く関わっている点が特色となっています。

このような状況を踏まえながら、本年度実施しました「光の森」活動と「学びの森」活動の2つの適応指導教室（教育支援センター）について、以下報告と併せて、取組について考察します。

2. 「光の森」活動

（1）活動の概要

基本日課			
10:00	10:10	12:30	13:00
朝の会 学習		昼食	フリータイム
(学年別一斉授業)		(運動・トランプなど)	
		14:20-14:30	14:35
		清掃	終わりの会

月曜日は主に吹田市立教育センターで午前10時から午後1時まで、美術や木工、書道、パソコン、料理教室などの実技体験をしてきました。この時にできた作品を懇談会の時に展示しました。火曜日から金曜日は午前10時から午後2時30分まで北千里の自然体験交流センター旧管理棟で、午前中は学習活動（国語・数学・英語）に取り組み、午後はフリータイムとして多目的ホールでバドミントン・卓球、カードゲームなどをして過ごしました。

通常の活動以外にも、年間計画に位置づけて、飯盒炊さんや遠足、運動会や百人一

首大会などの行事も実施しました。あわせて9月には、福祉体験を市内2ヶ所のデイサービスセンターにおいて2日間行いました。

「光の森」活動の大きな特徴は日々の活動や年間の様々な行事の実施により、異学年の児童・生徒が共に活動する中で、少しずつ自信を回復し、自立心を養っていることです。児童・生徒たちは「光の森」活動の中で自分の存在を肯定し、他者を認めていく中で成長していきます。適応指導教室の1つの目的である、心理的に不安を抱える児童・生徒の居場所としての機能、また「光の森」活動の特色である小集団での体験活動を通じて「自信や社会性を育む」ことにおいては、一定の成果を挙げてきました。

しかし「光の森」活動で回復したその自信を学校復帰にどうつなげていくかが、大きな課題となっています。

日々の活動を行うスタッフとして、教育センター主幹・指導主事（統括責任者）、研究員（教諭）、不登校児童・生徒支援員、相談員（臨床心理士）がおり、その他にフレンド（学生等のボランティア）が数名、活動に参加しています。

（2）本年度の活動状況

ア 在籍状況

	中3	中2	中1	小学生	合計	学校復帰	部分登校
入室	4	7	1	1	13	1	10
体験	3	6	5	0	14	0	6
合計	7	13	6	1	27	1	16

平成31年3月1日現在

※部分登校：テストを学校（別室）で受験、担任に会いに登校、別室登校などを含む

平成30年度の在籍者は上の表のとおりです。在籍児童・生徒には、部分登校をする者が多くいました。テストの受験を中心に、修学旅行や、体育大会、文化総合発表会などの行事に参加できたようです。学年を超えて、相互に良い刺激を得る中で登校への意欲が高まった結果だと考えています。様々な不安や自分の気持ちを言葉にし、スタッフやフレンドに受け止めてもらえたことで、登校への力を蓄えられたと考えています。

イ 学習活動

火曜日から金曜日までの毎日、午前10時10分から午後0時30分まで学習を行っています。学年ごとに3時間ずつ時間割を組み、国語、数学、英語の3教科を一斉

授業の形式で行っています。学習支援のフレンド（退職教師）が指導し、学生フレンドが児童・生徒の状況に応じて補助をすることもあります。

毎日必ず3教科の授業があることは、学習の遅れを取り戻そうとする意欲の高まりにつながり、少人数の授業によって、わかることや発言できる楽しさを感じた者も多くいます。

学校の定期テストについては、別室受験が主ではありますが、登校して受けている生徒もいます。登校できない生徒に関しては、学校に「光の森」で受験できるように配慮をしてもらった場合もありました。学校における学習の進度が「光の森」活動での授業進度とは違う場合も多いのですが、「テストを受けてみる」と挑戦する生徒が増えています。さらに、全国学力学習状況調査や大阪府のチャレンジテストは、多くの児童・生徒が受験しました。テスト受験が学習意欲を高めるきっかけとなり、日々の授業への前向きな姿勢につながって欲しいと思います。

ウ 体験活動

「光の森」活動では午後からのフリータイムや年間の様々な行事で仲間とともに行動することを学んでいます。室内で話をしたり、イラストを描いたり、音楽を楽しんだりすることもあります。大勢で活動できるようにフレンド・スタッフが児童・生徒たちを誘い、多目的ホールでバドミントンやバレーボール、卓球などもしています。児童・生徒たちは少しずつ集団に入ることに抵抗がなくなり、社会性を身に付けていきます。年間の行事でも遠足（秋・冬）、百人一首大会、スポーツ大会や青少年室主催の夏休み、冬休みの「さわやか元気キャンプ」に多くの児童・生徒が参加しています。

（３）家庭・学校との連携

ア 家庭との連携

「光の森」活動への正式入室後は各児童・生徒に担当の相談員が付き、本人への支援を行います。保護者とは月1回の面談を行い、家庭での過ごし方と「光の森」活動での状況を確認し、自立に向けた支援や今後の課題について話し合います。また、年に2回保護者懇談会を実施しています。「光の森」活動についての報告と意見交流を行い、取組みへの理解を深めてもらえるように努めています。この保護者懇談会は、保護者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。

イ 学校との連携

学校連絡会の名称で、担任の先生方だけではなく、管理職や不登校担当など他の教員の方々とも児童・生徒の情報交換ができる機会を設けています。これは当該児童・生徒への関わりや学校復帰に向けた基盤づくりを検討していただくことの目的も併

せもっています。

また、担任の先生方と連絡を取り合い、テストや学校行事等をきっかけに登校を促す取組みも行ってきました。進路を選択する中学3年生にとっては学校でテストを受験できたということが、大きな自信につながります。年々テストを学校で受験する生徒が増えている背景には担任の先生方をはじめ、教職員・教育相談員・SC(スクールカウンセラー)といった方々が様々な形で児童・生徒に関わりを持っているということが考えられます。

今後は別室登校であれば登校できるといった児童・生徒がいることから、校内の適応指導教室の常設をさらに積極的に考えていただき、読書支援員やSSW(スクールソーシャルワーカー)など教員以外の方々の力も借りて運営していく方向性を探っていただきたいと思います。

今年度は、一人でも多くの先生方に「光の森」活動や適応指導教室について知っていただきたく、養護教諭研修や初任者研修とステップアップ研修を「光の森」活動で実施しました。加えてSSWの方々にむけての研修も実施しました。

3. 「学びの森」活動

(1) 活動の概要

基本日課			
10:00	12:20	13:00	14:30
朝の会・個別学習(40分×3)	昼食	自主活動	終わりの会
(会話・卓球、音楽、ゲームなど)			

「学びの森」活動は平成20年度に竹見台多目的施設の2階に開設されました。

「学びの森」活動と「光の森」活動の大きな違いは「学びの森」活動では個別対応を中心とした活動や学習を行っていることです。まずは人間関係作りを学ぶことからスタートします。午前中の学習活動では、できるだけ個別対応で、フレンドと会話をしながら児童・生徒たちが学習に少しでも取り組めるように心がけています。誰とも話さない状態から、フレンドと一対一の会話、フレンドを交えて児童・生徒たち同士の活動に発展していきます。活動は個々の興味関心に合わせています。活動の中ではトランプや卓球などが他者へのかかわりを増やすうえで効果的でした。ただ、その活動に入れるまでの時間は児童・生徒によって様々です。様子を見ながら、できるだけ無理のないように誘っていくようにしています。平常の活動の他、体験的な内容とし

て調理活動も実施しました。児童・生徒が計画を立て、チラシ作りも行い、パンケーキづくりに挑戦しました。

さらに、「光の森」活動との合同行事、流しそうめんや希望者のみの飯盒炊さんに参加できた児童・生徒もいました。今後も引き続き、「学びの森」活動を離れての活動も行っていきたいと思います。

日々の活動を行うスタッフとして、教育センター主幹・指導主事（統括責任者）、研究員（教諭）、不登校児童・生徒支援員、不登校児童・生徒指導員、相談員（臨床心理士）がおり、その他にフレンド（学生等のボランティア）が毎日数名活動に参加しています。

（２）本年度の活動状況

ア 在籍状況

	中 3	中 2	中 1	小学生	合計	復帰	部分登校
正式入室	6	5	0	5	1 6	1	8
体験中	7	6	3	1	1 7	0	6
合計	1 3	1 1	3	6	3 3	1	1 4

平成 3 1 年 3 月 1 日現在

※部分登校：テストを学校（別室）で受験、担任に会いに登校、別室登校などを含む

平成 3 0 年度の在籍者は上の表のとおりです。「光の森」活動と同様に、テスト受験での部分登校が主でしたが、修学旅行をはじめ、学校行事に参加できた児童・生徒もいました。

イ 学習活動について

「学びの森」活動は午前中 4 0 分× 3 時間を学習時間として設定し、5 教科の他、学校からの課題で出された美術などの作品作りを行うこともありました。自学自習を基本とし、わからないところは質問するといった形で行われています。知らない人がいる教室には入れない児童・生徒もいることから、それぞれの実態に応じて支援することが中心となります。

学校での定期試験や実力テストについては、学校から本人に直接連絡をもらっていることが多いですが、テストを受けるかどうか、受けるとすればどこで受けるのかを本人の気持ちを聞きながら学校と連携して進めています。学校の別室へ登校できない児童・生徒については、テストを届けてもらい、「学びの森」活動で受験し、それを採点してもらうこともありました。

課題としては、児童・生徒が毎日来ることができるとは限らない中、「学びの森」活動の中で学習活動を進めるのが非常に難しいことがあげられます。系統だてた学習支援をすることが難しく、テストを受けることへの逡巡。その結果がかえって自信をなくす原因となることもあり、学習への意欲を持続させることの困難さを感じています。

(3) 家庭・学校との連携

ア 家庭との連携

「光の森」活動同様、相談員が月に一回の保護者との面談を行っています。家庭での過ごし方と「学びの森」活動での状況をお互いに確認するとともに、自立に向けた支援や課題について話し合っています。また状況に応じて、支援員が家庭と連絡を取っています。

イ 学校との連携

担任や学年の先生方と連絡を取り合っています。それに加えて定期的に学校連絡会を行っています。学校連絡会は広く関係の先生方にも参加してもらえるようにしながら、学校復帰を学校とともに考えていく場として位置づけています。

4. 「家庭訪問」活動

「家庭訪問」活動は平成4年度から始まった事業で、家に引きこもりがちな児童・生徒を対象に、フレンドを週1回（2時間程度）家庭に派遣し、「話し相手・遊び相手」として関わり、対人関係の不安を除き、自信を回復させていくことで学校復帰を促していく活動です。

今年度はこの活動は派遣可能なフレンドがいなかったため、実施することができませんでした。今後、「家庭訪問」活動が可能なフレンドの確保と、育成が課題であると考えています。

5. まとめ

今年度、「光の森」活動「学びの森」活動の中で多くの児童・生徒と出会い、良い方に向かうようにと願いながら、支援してきました。それぞれの森での学習活動や体験活動、フレンド・スタッフとの交流を通じてたくさんの児童・生徒が人との交わり方を身につけ、仲間とともに活動できるようになりました。学校にいけない中、自信をなくしていたこどもたちが、お互いを認め合い、成長する姿は支援する側もはげま

され、心が温かくなります。

しかしながら、子供に寄り添い、悩みを打ち明けられる存在であるフレンドの人数が減っています。かつてはフレンドの主力となってくれていた大学生が多忙化しているからか、駅からの距離もある「光の森」活動では、午後からゼロの日もめずらしくありません。

今後、適応指導教室に欠かせない存在であるフレンドの確保について、早急に手を打つ必要があると感じています。